

500人が季節を満喫

宇野千代生家 3年ぶり「もみじ茶会」

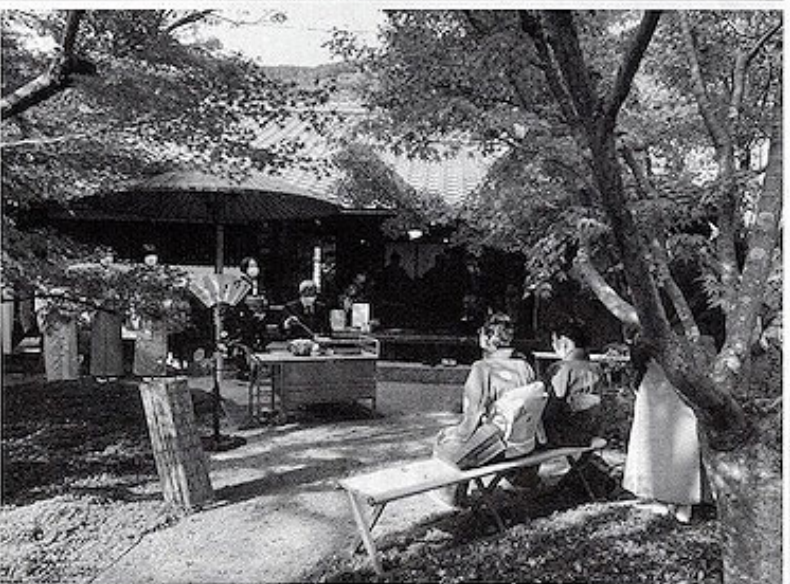
紅葉がよりの各地から届く中、約100本のモミジが植えられている岩国市川西2丁目の宇野千代生家で19日、3年ぶりの「もみじ茶会」が開かれ、約500人が楽しんだ。



……3年ぶりの「もみじ茶会」。今回は武者小路千家山口官休会岩国支部が接待した。

宇野千代作品を顕彰している宇野千代顕彰会（島津教恵会長）が主催した。共催は岩国茶道連盟と生家の開放事業を運営しているNPO宇野千代生家。今回は武者小路千家山口官休会岩国支部（松田清乃支部長）が茶の接待を担当した。後援は市、市教委、市文化協会。

生家のモミジは秋が深まる
と濃い赤や黄色に染まり、庭の大地を覆ったスギコケの緑と共に来場者を魅了する。お茶会は毎回、千代の好物だった「いがもち」と抹茶でもてなす。お茶券は500円（抹茶



茶、お菓子、生家人館料を含む）。

三密を防ぐため、今回は午前の部（10時～12時）、午後の部（13時～15時）ラスト入場

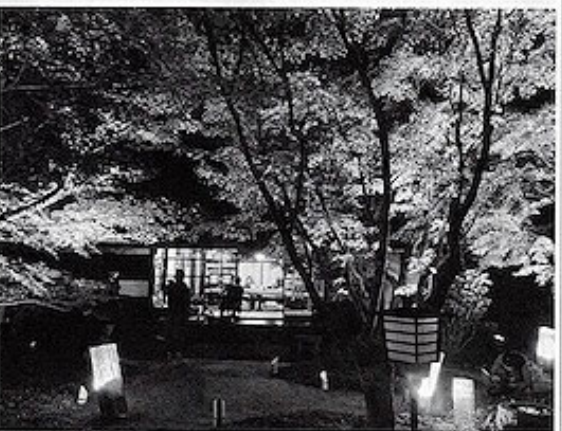
生家の庭に赤い野点傘を立てお茶を点てた

は14時45分）に分けた。筆生田流正派茶陽会・長瀬雅



種社中による演奏も初めて加わり、一層晴れやかな感じとなった。顕彰会会場に技術箱を設置して俳句や短歌を募集した。後日、優秀作を発表する。

生家内の階敷では長瀬雅樹社中が俳句を演奏した。



水野万里さんの指導で千代の位牌がある生家の仏壇への献茶から始まった。庭に赤い野点傘を立て、その下で作法にのっとり、官休会の会員が茶を点（た）てた。

18日夜の生家の庭のライトアップの様子

■国登録有形文化財

宇野千代生家は明治期の町家で国登録有形文化財に指定されている。1974年、千代自身が当時のままに修復した。現在は市が買い取り、開放事業を行っている。観覧料は大人310円、約3000坪

関係者もあり、パイロットの夫に持つサラ・ティロンさんは「四季が感じられる日本の茶道が好き」と話していた。黒澤会長は「3年ぶりに聞くことができ、懐かしい顔にたくさん会えたのが嬉しいです。千代先生はもてなすことが好きだった。天候にも恵まれ、このような形で多くの方を迎えることができて大満足です」と話した。

茶場着きもの姿の女性が目立った。友人と来場した50代の女性は「こういう機会があると、だんだん元の生活が取り戻せる気がする。日が差すと、もみじの赤が一層引き立ちますね」と話していた。

■ライトアップ

もみじの季節に合わせて、岩国市は紅葉の季節に合わせて、18日、19日の2日間、生家の庭園ライトアップ事業（点灯時間は17時30分～19時30分）を行った。昨年、試験運行したところ、好評だったため、今年から本格実施することにした。